

# 磐城時報

福島縣石城郡平町村屋敷十四  
編輯兼發行人 岡田弘成  
印刷 石城郡平町屋敷十四  
電話 一四三三  
社址 石城郡平町屋敷十四  
電話 一四三三  
廣告料 一行一十四字 日金五十錢  
訂金 一月一圓 三月二圓 半年三圓 一年五圓  
代金 即日 郵局掛金 郵便振替 均可  
電話 一四三三

## 大瀧發電所問題 七日中に解決か 知事、土木課長が來平し 調停の勞をとる

大瀧發電所問題について平井内會合し知事の返事を待つてゐる。務部長並に中川土木課長等去月七日中には解決がつくものと觀測されてゐる。(午後一時稿)

## 炭礦の 滞納減る

平務署では炭礦の不況から年々滞納の増加が懸念されてゐる。五月には十四萬三千圓の巨額に達した。傳家の實力を以て定めたので價格は未だ決定せぬ。強硬処分を行ふべく先づ七ヶ年各炭礦共安堵の模範である。

## 鐵道納炭 七十萬噸

不況のどん底に陥つてゐる石城の各炭礦では一樓の望みをかけた鐵道納炭の契約が二年度は五十六萬噸に過ぎなかつた。この三年度には七十萬噸契約に内定したので價格は未だ決定せぬ。

## 磐中卒業式 伊東知事臨席 卒業生は百五十六名

縣立磐城中学校第二十八回卒業式は七日午前十時から同校大講堂で舉行、職員、生徒、來賓、草野順平氏謝辭をのべて閉式した。知事入場後唐土校長長辭の辭に、ついで君代合唱、勸進奉讀あり、卒業證書及び賞状授與後伊東知事、唐土校長の告辭あり、次に來賓及び同窓會を代表し、鈴木辰三郎、三森虎雄兩氏の祝辭あり、在學生徒總代白馬謙一

を示してゐる。卒業生の志望別は、高校二九、高一四、美術高商八、師範二部一、美術校六、商船五、高農四、高師三、教員養成所四、警専三、海兵三、外語二、北海大學二、早大三、明大二、慈醫一、秋田鐵道一、水産講習所一、慶應一、商大一、拓殖一、東亞同文一、青山學院一、齒科醫專一、藥專一、逓信官吏二、陸士一、鐵道教習一、大正大學一、千葉高園一、官吏一、教員六、中央氣象臺測候技師一、殖民地巡査一、鐵道四、實業二八

## 流行し出した賭博を 徹底的に檢舉する 槍玉に上つたペンキ屋 平署刑事連意氣込む

平町白銀町十四番地ペンキ屋岡が、最近平町各所に殆んど半公野忠一方奥座敷で岡野忠一(三三)然るに賭博が開帳されてゐるの五)の外七軒町金澤恒三(三三)で此際徹底的に檢舉する方針で白銀町長谷川長太郎(四四)五丁あると平署で語つてゐる。目録木實(四二)等が車座となり、花合せ賭博を開帳中平署刑事に踏み込まれ一網打盡に捕はれた。

## 春蠶飼育指導

講師各町村を巡回石城郡養蠶同業組合では本年春蠶飼育期を前に控へ同地方に最も適切な飼育指導を行はんと管内希望町村に養蠶講習會を巡回開會の豫定であるが、六日迄に決定せる開催日割は左の通りで講師は成田、酒井兩技手であらう。

## 舊城跡を保勝したい 遊園地の計劃起る

平町の舊城跡即ち平城の殘影は城主安藤信正が成長の亂に際し奥羽諸將に同盟しもうくも陥落する上に老中に列する信正の陣圖論が當時の人心に誤られて名將の末路甚だ哀れなものがあつたためか、平町町火防組合は今回統一合同を内全く荒れ果て、古影年と共に崩れ去るに近年町の膨張が漸やく城跡に延びて城壁は破壊され堀は埋められて寶曆六年五月井上河内守利容の轉封に代る安藤對馬守信成業代の史蹟地勝悉く抹殺されんとしつゝあるを目撃し乍ら之を保存せんと思ふに至り涙なき石城人の無情を慨歎されてゐるが最近町内有志の間にせめて城内の一角だけなり舊態を保存し隣藩相馬中村城や二本松、白河、仙臺、秋田、米澤、山形、盛岡等のそれに倣ひ町有として市民の遊園地に充てやうとの計畫が起り平安會とも力を併せ此實現に奔走する事になつたが、城中に舊態を止むるものは白蛇堀の墓墓通等公にならない犯罪が幾等々の犯罪防止に全力を盡す由。

## 火防組合 役員決定

平町町火防組合は今回統一合同を内全く荒れ果て、古影年と共に崩れ去るに近年町の膨張が漸やく城跡に延びて城壁は破壊され堀は埋められて寶曆六年五月井上河内守利容の轉封に代る安藤對馬守信成業代の史蹟地勝悉く抹殺されんとしつゝあるを目撃し乍ら之を保存せんと思ふに至り涙なき石城人の無情を慨歎されてゐるが最近町内有志の間にせめて城内の一角だけなり舊態を保存し隣藩相馬中村城や二本松、白河、仙臺、秋田、米澤、山形、盛岡等のそれに倣ひ町有として市民の遊園地に充てやうとの計畫が起り平安會とも力を併せ此實現に奔走する事になつたが、城中に舊態を止むるものは白蛇堀の墓墓通等公にならない犯罪が幾等々の犯罪防止に全力を盡す由。

## 平署で性的犯罪の 取締りに全力傾注

萬物が激測たる生氣に躍動するでもある、殊にこれから最も春になつて一番多いのは性的犯罪多し前記の如き男女關係から端罪で、殊に斯うした犯罪が多いを發し傷害事件等も断然なく行なひ、管内に持つ平署では之がはれ、またこの炭礦の風紀がい徹底的取締方について頭を悩ましつつか地方村落にまで浸潤してゐる、多數労働者が集まつ居り花時になると家出する少年凍死してゐるのを掃除人菅野源作が發見届け出したので平署佐藤部長檢死し死体は平町役場に引渡して假埋葬にした。

## 陸軍經理生 平町で演習

陸軍經理學校生徒十數名は來る二十日頃平町に來り演習を行ふ等之が準備のため同校教官三等主計正清川正義氏が七日平町に來り各種の打合せをなした。

## 共同便所に 住んでゐる女 寒さで凍死

新潟縣東蒲原郡津町宇寺町生れ菅川リヨ(六三)は平地方に來り労働に従事してゐたが數年前から中風症にかつたので乞食となり平町松ヶ岡公園内共同便所に住居としてゐた處昨今の寒氣のため六日夜同所に寝たまゝ凍死してゐるのを掃除人菅野源作が發見届け出したので平署佐藤部長檢死し死体は平町役場に引渡して假埋葬にした。

### 高久病院

院長 高久 忠  
電話 一三五

### 大瀧發電所問題

## 交渉に手を焼く

#### 七日午後三時の形勢

七日正午から大瀧發電所設置側使用後河原に捨てたこと云ふ該提では野崎彌藏、馬目雄次郎、草灯の一部には河原に遺棄したる野七五三之助、栗原欣次郎等各事實を證據立てる少しばかりの氏松ヶ岡公園とさきに陣取り伊砂が附着して居り被告にとつて東知事の交渉に對し案を練つた極めて不利な結果となつたが東が容易に具體案が決定せぬので京から來縣せる塚崎辯護士は當午後三時まで延引、一方平水道夜果して使用せるものなれば當調査委員並に伏見町長等は平水時点火の痕跡即ち燈籠の底に道部で知事の回答一刻も早かれと待つてゐるが設置側の態度が決まらぬため午後一時の約束が漸やく午後三時になつて土木課長が臨席その議を陳謝的に述べらる處あり、反對同盟會員は丸新館に立て籠り解決案を鶴首して待つてゐる。(午後三時半記)

### 白水の

## 五人殺し事件

#### 疑雲に包まれる

地方稀有の慘劇として今尚世人の記憶に新なる石城郡内郷村大字白水大越治七一家五人殺しの犯人として巽に福島地方裁判所平支部に於て死刑の宣告を受けた治七の叔父に當る同村居住翁木治八郎(五〇)の控訴公判は一日午前九時より宮城控訴院で昨五日午前九時より宮城控訴院刑事部法廷に於て開かれたが被告治八郎は石川裁判所長の訊問に對し當夜の犯行を否認しそれより最後の黒白を決すべき閉廷したが、一時世人の耳目を證據調に移るや當夜被告が使用せられたといふ提灯に對し専門家の鑑定を必要ありとして東北大學石川博士によつてこれが鑑定中きたる怪事件としてその成りゆ前後二時間休憩再開の結果當夜を刮目してゐる。

昭和三年度  
春の粧ひ!  
新柄が豊富に  
取揃へました  
是非御覽下さい


新模様銘仙  
館京御召  
陳小紋錦紗  
列帯  
平町  
三井呉服店  
番三八・七五一

融金の易簡 意誠と實堅  
蓄貯の味趣 榮共存共

大蔵大臣 許  
大坂 植田本社  
支社 町田  
支社 平社  
支社 町中  
【番九六七平・番一話電】

もで時何りお所扱取に處る到内縣  
すまり募を員會すね絶いさ下込申

着ナフートル  
尺モスリン  
模様銘仙  
平  
龜田屋  
電五七



外科専門  
入院隨意  
上田外科醫院  
南町電三九

原齒科醫院  
平町土橋通り  
電話三一三番

### 牛豚肉特價

牛中	肉百匁	金三十三
牛上	肉同	金五十五
口	肉同	金七十五
口	肉同	金九十
豚	肉同	金九十
豚	肉同	金六十

平町停車場前(平劇場入口)  
廉賣王の深谷牛肉店  
電話五二四番

### ユラノスケ瓶詰

三月七日より三日間 特價提供

銘酒一升瓶詰 一圓  
四合瓶詰 四十錢  
二合瓶詰 二十錢

御注文次第直ちに配達いたします  
平町 永山酒造店 小賣部  
電話二〇七番

### 東京大歌舞伎

市川壽美十郎 大一座  
市川海老藏

初日狂言  
一、江戸の花角力の達引 全通し  
二、大江山四天童兒頼光御殿  
三、山門五三の桐石川五右門  
四、繪本太功記尼ヶ崎の場

當七日四時花火合  
平劇場

### 常磐第一ノ磐城炭礦ノ炭礦

大ナル炭礦

◎石炭とコークスの特長  
一、品方ノ正  
二、品質ノ優  
三、配達ノ迅速  
四、燃焼力ノ強

石炭ハ正十貫目一俵金六十五錢也  
平 驛前  
電話三三七番  
阿部石炭商店

### 靴とかばん

◎御注文は特に勉強  
◎既成品も豊富にありませす  
平町搔搔小路(役場前)  
福山靴店

### ゼンソクエキス定價

十五回分金壹圓參拾錢 三十四回分金貳圓五拾錢  
六十回分金四圓八拾錢 百回分金七圓也  
平町四丁目(電話百四十四番)

特約店 小野藥舖

### 父松次郎儀今朝磐城中學校ニ出

勤ノ處腦溢血ノタメ醫師ノ手當モ  
其ノ違ナク八時三十分死去致シ候  
間此段尋知各位ニ御通知申上候也  
追テ葬送ノ儀ハ本月九日午後二時當町明  
賢寺ニテ佛式ヲ以テ相營ミ可申候  
昭和三年三月六日

男 中根正三  
友人總代 唐土齊治  
親戚 一齊同  
磐城中學校同窓會